

## 保育士養成校の学生が考える「障害児保育の専門性」 —KJ法を用いたスモールグループディスカッションによる検討—

西 木 貴美子

### I 問題と目的

幼稚園や保育所などにおいて障害のある子どもと障害のない子どもと一緒に保育を受ける統合保育が実施されていることは現在では珍しいことではない。最近では、インクルージョン概念に基づくインクルーシブ保育のあり方が提唱されるようになってきている(田中, 1998)。統合保育が「障害のある子ども」と「障害のない子ども」というように二元的に論じられてきたことに対し、インクルーシブ保育は最初から障害の有無を前提とせず、すべての子どもを対象とし、一人一人が異なることを踏まえ、そのニーズに応じた保育を行うことを意味している(山本・山根, 2006)。インクルーシブ保育の実現には保育者や親などの子どもを取り巻く人的環境の整備(津守, 1998)や、保育者の障害に関する知識やその特性に合わせた関わり方等の技術が求められている(園山・由岐中, 2000)。

さらに、特別支援教育の推進から、ADHD、LD、広汎性発達障害などの発達障害のある子どもや、明確に「障害」があると診断を受けていないものの、「気になる子」として顕在化している発達に何らかの課題がある子どもの保育ニーズも高まっている。

現在、このような専門的な知識や技術については、厚生労働省が定める「保育士養成課程」では教科目「障害児保育」で学ぶ内容に位置づけられている。平成22年の「保育士養成課程等の改正について(中間まとめ)」(厚生労働省, 2010)には単位数の変更科目として「障害児保育」が挙げられており、「保育現場における障害のある子どもの増加や障害の多様化などを踏まえ、より専門的な学習が必要となっている。特に発達障害及びその疑いのある子どもや保護者への支援を含め、保育現場での適切な対応を修得するため、単位数を増やす。」としている。具体的な目標と内容としては以下のように示されている。

#### 〈目標〉

1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。
3. 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。
4. 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。
5. 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。

〈内容〉

1. 障害児保育を支える理念

- (1) 「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷
- (2) 障害児保育の基本

2. 障害の理解と保育における発達の援助

- (1) 肢体不自由児、視覚・聴覚障害児等の理解と援助
- (2) 知的障害児の理解と援助
- (3) 発達障害児の理解と援助①（ADHD－注意欠陥多動性障害、LD－学習障害等）
- (4) 発達障害児の理解と援助②（PDD－広汎性発達障害等）

3. 障害児保育の実際

- (1) 保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価
- (2) 個々の発達を促す生活や遊びの環境
- (3) 子ども同士のかかわりと育ち合い

4. 家庭及び関係機関との連携

- (1) 保護者や家庭に対する理解と支援
- (2) 地域の専門機関等との連携及び個別の支援計画の作成
- (3) 小学校等との連携

5. 障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題

- (1) 保健・医療における現状と課題
- (2) 福祉・教育における現状と課題
- (3) 支援の場の広がりにつながり

しかしながら、このような保育士養成課程を学んだ保育者でも、インクルーシブ保育、統合保育、どちらの保育も、多様なニーズをもつ障害のある子どもを受け入れている保育現場では、保育を行う上で困難が伴うことが多い。統合保育が保育士に与える影響に関する調査からも、統合保育において保育士が感じる問題点として、専門的な関わりの必要性、保護者との連携や信頼関係、専門機関との連携、施設全体の協力体制があげられている（河内・福澤・濱田，2006）。また、統合保育を実施する上で必要な専門性として保育者が求めているのは、理論や理念ではなく、障害に応じた実践的な対応のあり方であるとも言われている（遠藤・徳田，1996）。

そこで、本研究では障害児保育の実践に必要とされる保育者の専門性に焦点を当て、保育者を目指している保育者養成校の学生を対象に「障害児保育における保育者の専門性とは何か」というテーマで1グループ5～7名のスモールグループでディスカッションを行い、その内容をKJ法（川喜田，1986）による分類を行った。そして得られた結果から保育者養成校の学生が考える「障害児保育における保育者の専門性」を明らかにし、障害児保育実践に向けた今後の保育者養成の在り方について検討を行うことを目的とする。

## Ⅱ 方法

### 1. 調査対象

調査対象は大阪府内の4年制大学で保育者養成の課程に所属する2年生30名である。調査時に対象者は「保育実習」は未習であり、授業の「障害児保育」を受講中である。

### 2. 調査時期

調査期間は2011年6月である。

### 3. 手続き

まず、調査対象の30名を任意でA～Eの5グループ（各グループ5～7名）に分け、各グループに対して「障害児保育における保育者の専門性とは何か。」というディスカッションのテーマを提示した。

次に、各グループのメンバーがテーマのもと、ディスカッションを行った。ディスカッションの方法は、KJ法で実施した。本研究では、第1段階の分析として、ふせんに記入した事柄のうち類似したものを集めて分類し、一次カテゴリーとした。第2段階の分析として、一次カテゴリーの中で類似したものを集めて分類し、二次カテゴリーとした。最後に各グループが二次カテゴリーで得られた結果を構造図として作成した。

## Ⅲ 結果

### 1. 二次カテゴリー

得られた二次カテゴリーの内容を示したのがFigure 1である。Figure 1によると、二次カテゴリーは、「子どもを理解する」「保育者の人間性」「関わり方」「支援」「知識」「保護者の関わり」「信頼」「援助」「愛情」「障害に対する理解」の順に多かった。

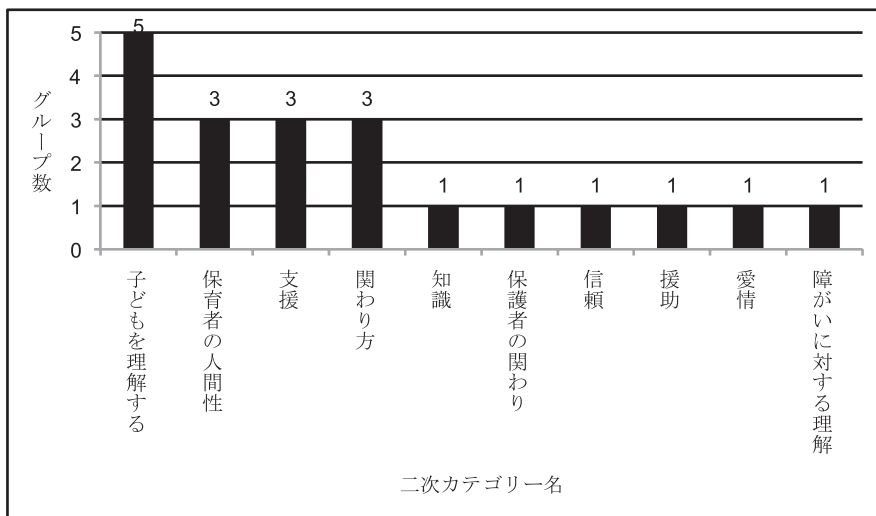


Figure 1 二次カテゴリーの内容

各グループを比較すると、全グループが「子どもを理解する」をカテゴリーとして挙げていることがわかった。次に「保育者の人間性」「支援」「関わり方」を過半数の3グループがカテゴリーとして挙げていることがわかった。

## 2. 一次カテゴリー

次に各グループにおける二次カテゴリーを構成する一次カテゴリー及び該当意見をTable 1からTable 5に示す

各グループの一次カテゴリーとして多いものから「相談・支援」（6グループ）、「理解」・「知識」・「信頼」（4グループ）、「観察」（3グループ）、「愛情」・「保育者の人間性」・「関わり方」・「環境」・「コミュニケーション」（2グループ）、「聞く」・「遊びを考える」・「保育者の体験」・「受容」・「平等」・「みきわめる」・「他の子どもに障害のことを教える」（1グループ）となった。

**Table 1 障害児保育における保育者の専門性：二次・一次カテゴリーと内訳（Aグループ）**

| 二次カテゴリー<br>(意見数) | 一次カテゴリー<br>(意見数) | 該当意見 (意見数)                    |
|------------------|------------------|-------------------------------|
| 保育者の人間性<br>(6)   | 信頼関係(4)          | 信頼関係を大切にする(1)                 |
|                  |                  | 子どもと信頼関係を築く(1)                |
|                  |                  | 保育者と障害者の関係性(1)                |
|                  |                  | 子どもの安心できる居場所づくり(1)            |
|                  | 愛情(2)            | 子どもの笑顔(1)                     |
|                  |                  | 子どものやりたいことを安全に気をつけてさせる(1)     |
| 子どもを理解する<br>(20) | 知識(7)            | 障害について知識を深める(4)               |
|                  |                  | 子どもが抱えている障害を把握させる(1)          |
|                  |                  | 障害への医学的な知識(1)                 |
|                  |                  | それぞれの障害についての特徴を知る(1)          |
|                  | 聞く(5)            | 障害の思いを聞いて受け止める(1)             |
|                  |                  | 子どもの気持ちを聞いて理解する(1)            |
|                  |                  | 障害児の言葉を理解する(1)                |
|                  |                  | 子どもとの関わりを言葉を通して理解する(1)        |
|                  |                  | コミュニケーションをはかる(1)              |
|                  | 理解(4)            | 障害について他児に理解させる(1)             |
|                  |                  | 障害のある子どももない子どもも同じように接する(1)    |
|                  |                  | 障害に関係なく平等に接する(1)              |
|                  |                  | 障害児への偏見をもたない(1)               |
|                  | 観察(2)            | 子どものできないことを観察する(1)            |
|                  |                  | 障害児と他児との関係を観察する(1)            |
|                  | 遊びを考える(2)        | 障害児がどのような遊びができるか考える(1)        |
| 支援(9)            | 援助(5)            | 障害のある子どもの活動を支援する(3)           |
|                  |                  | 何ができてできないかを知ったうえで、適切な援助をする(1) |
|                  |                  | 保育環境について、危険なことを知ることのできる援助(1)  |
|                  | 保護者支援(3)         | 障害児の親の支援をする(1)                |
|                  |                  | 子どもの家庭を支援する(1)                |
|                  |                  | 保護者と話し合う(1)                   |
|                  | 専門機関との連携(1)      | 保護者に専門機関を知らせる(1)              |

**Table 2 障害児保育における保育者の専門性：二次・一次カテゴリーと内訳（Bグループ）**

| 二次カテゴリー<br>(意見数) | 一次カテゴリー<br>(意見数) | 該当意見（意見数）                          |
|------------------|------------------|------------------------------------|
| 保育者の人間性<br>(4)   | 保育者の人間性(4)       | 子どもと信頼関係を築く(1)                     |
|                  |                  | 子どもと信頼関係を築くためのコミュニケーションをとる(1)      |
|                  |                  | 子どもと信頼関係を深める(2)                    |
| 知識(6)            | 知識(6)            | 子どもの障害について学ぶ(1)                    |
|                  |                  | 障害に関する知識を得る(2)                     |
|                  |                  | 身につけている器具について、どのようなものか知る(1)        |
|                  |                  | 子どもができること、できないことを知る(1)             |
| 理解(4)            | 理解(4)            | 子ども一人ひとりを理解する(2)                   |
|                  |                  | その子が何を伝えようとしているか理解する(1)            |
|                  |                  | 子どもの一つ一つの動作を理解する(1)                |
| 援助・支援(5)         | 援助・支援(5)         | どのようなことができるか把握し、それに見合う援助をする(1)     |
|                  |                  | 子どもが落ち着いて環境を学び、その環境をつくる(2)         |
|                  |                  | 何ができるのか、何に興味があるのか知り、保育者が援助する(1)    |
|                  |                  | どのようなものが安全で、どのようなものが危険か観察し、支援する(1) |
| 関わり方(4)          | 関わり方(4)          | できないことがあっても手をかさずに見守る(1)            |
|                  |                  | 子どもの話を聞く(1)                        |
|                  |                  | 子どもと一緒に楽しむ(1)                      |
|                  |                  | 意欲のない子どもには声をかける(1)                 |

**Table 3 障害児保育における保育者の専門性：二次・一次カテゴリーと内訳（Cグループ）**

| 二次カテゴリー<br>(意見数) | 一次カテゴリー<br>(意見数) | 該当意見（意見数）                          |
|------------------|------------------|------------------------------------|
| 保育者の人間性<br>(5)   | 信頼関係(3)          | 障害のない子どもと信頼関係を結べるようにする(1)          |
|                  |                  | 保育者との信頼関係(1)                       |
|                  |                  | 信頼関係を高める(1)                        |
|                  | 愛情(2)            | 子どもが好き(1)                          |
|                  |                  | みんなと同じように接する(1)                    |
| 子ども理解(8)         | 子どものことを理解する(4)   | 障害の特徴を知る(2)                        |
|                  |                  | 障害の子どもの中の世界的世界を理解する(1)             |
|                  |                  | 障害の子どもへの障害名を知る(1)                  |
|                  | 知識(4)            | 障害の子どもに対する知識(2)                    |
|                  |                  | 障害について学ぶ(1)                        |
| 子どもへの関わり<br>(12) | 援助(6)            | 子どもが何ができでできないかを学ぶ(1)               |
|                  |                  | 障害に応じて援助をする(2)                     |
|                  |                  | 絵カードを作成する(1)                       |
|                  |                  | 障害のある子どもの話を聞く(1)                   |
|                  |                  | 生活に必要な言葉を教える(1)                    |
|                  | 受容する(4)          | いじめがおこらないように配慮する(1)                |
|                  |                  | その子の心を受け止める(1)                     |
|                  |                  | 障害のある子どもの努力を受け止める(1)               |
|                  |                  | 障害のある子どもと気持ちを分かち合う(1)              |
|                  | 体験(2)            | 子どもが安心できるように、障害のある子どもの気持ちを受け止める(1) |
|                  |                  | 車いすに乗る体験をする(1)                     |
| 保護者の関わり(1)       | 保護者の関わり(1)       | 障害のある子どもに関わる体験をしておく(1)             |
|                  |                  | 保護者とよく話し合う(1)                      |

Table 4 障害児保育における保育者の専門性：二次・一次カテゴリーと内訳（Dグループ）

| 二次カテゴリー<br>(意見数)  | 一次カテゴリー<br>(意見数)    | 該当意見（意見数）                          |
|-------------------|---------------------|------------------------------------|
| 信頼(3)             | 信頼(3)               | 子どもと信頼できるようにその関係作りをする(2)           |
|                   |                     | 愛情を持って接する(1)                       |
| 理解(9)             | 理解(9)               | 子どもの障害を理解する(3)                     |
|                   |                     | 障害に対する知識を身につけ理解する(1)               |
|                   |                     | 障害の特徴を理解する(2)                      |
|                   |                     | どのような障害があり、何ができるのかできないのかを理解しておく(2) |
|                   |                     | 子どもの興味のあることを理解する(1)                |
| 子どもとの関わり<br>方(10) | コミュニケーションを<br>とる(5) | 子どもの話をよく聞く(2)                      |
|                   |                     | 一人ひとりと目線を合わせて向き合う(1)               |
|                   |                     | その子に応じたコミュニケーションをとる(2)             |
|                   | 観察する(3)             | 子どもの様子を観察する(1)                     |
|                   |                     | 子どもの見え方を観察する(1)                    |
|                   |                     | 子どもの置かれている状況を観察する(1)(1)            |
|                   | 環境構成(2)             | 子どもが進んで行動できるように環境を工夫する(1)          |
|                   |                     | 言葉が通じないときは、絵や写真で説明する(1)            |
| 援助(6)             | 援助(6)               | 個別に伝える(1)                          |
|                   |                     | できることはほめて、やる気を持たせる(1)              |
|                   |                     | 自分でできることは、自分でできるように励ます(1)          |
|                   |                     | 障害のある子どものできる遊びをみんなでする(1)           |
|                   |                     | 何度も繰り返し教えていく(1)                    |
|                   |                     | その子どもの良いところを伸ばしていく(1)              |

Table 5 障害児保育における保育者の専門性：二次・一次カテゴリーと内訳（Eグループ）

| 二次カテゴリー<br>(意見数)    | 一次カテゴリー<br>(意見数)    | 該当意見（意見数）                 |
|---------------------|---------------------|---------------------------|
| 愛情(6)               | 保育者の人間性(4)          | 愛情を持って接する(3)              |
|                     |                     | 関心を持って接する(1)              |
|                     | 子どもとの信頼関係(2)        | 子どもとの信頼関係を築く(2)           |
| 障害に対する理解<br>(9)     | 知識(8)               | 教科書などで知識を身につける(1)         |
|                     | 他の子どもに障害の<br>ことを教える | 障害について知識や理解を深める(7)        |
|                     |                     | 他の子どもに障害のことを教える(1)        |
| 障害のある子どもの<br>理解(18) | コミュニケーション<br>(6)    | 子どもの話を聞く(3)               |
|                     |                     | 子どもと一緒に遊ぶ(2)              |
|                     |                     | 周りの人と、障害のある子どもについて話し合う(1) |
|                     | 観察(5)               | どこから援助が必要かよく観察して知っておく(1)  |
|                     |                     | よく観察して、何に興味を持っているかを観る(1)  |
|                     |                     | 子どもがどのような理解をしているか、観察する(1) |
|                     |                     | よく観察する(2)                 |
|                     | 平等(4)               | あまり特別扱いしない(1)             |
|                     |                     | ひいきになるような行為をしない(1)        |
|                     |                     | 障害児を差別しない(1)              |
|                     |                     | いじめにならないよう配慮する(1)         |
| 支援                  | 支援                  | 支援の在り方を考える(1)             |

### 3. 構造図

各グループが二次カテゴリーで得られた結果を構造図として作成したものをFigure 2からFigure 6に示す。

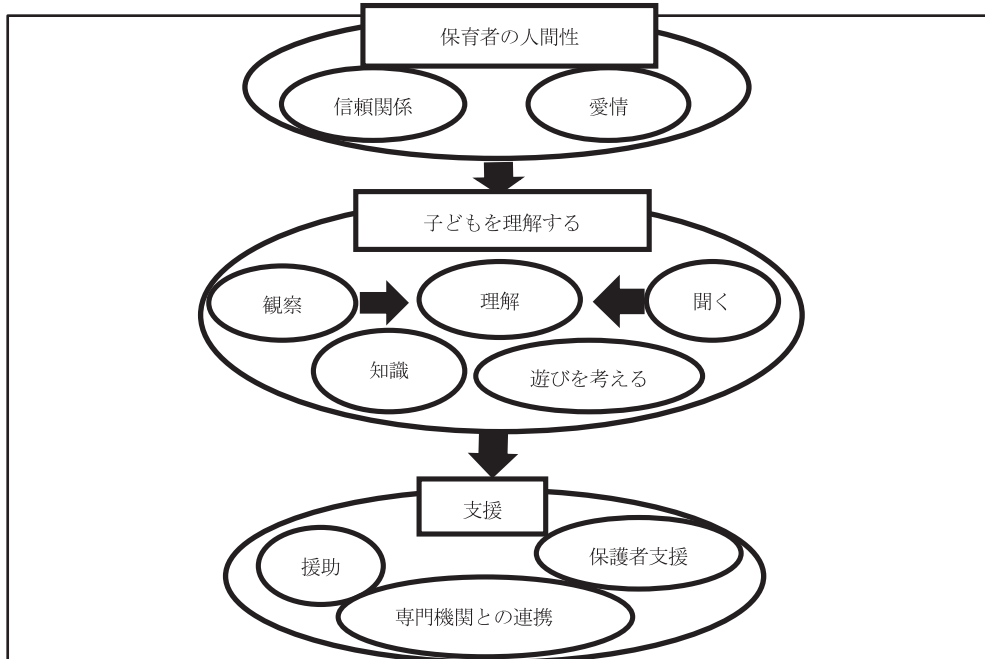


Figure 2 障害児保育における保育者の専門性：構造図（Aグループ）

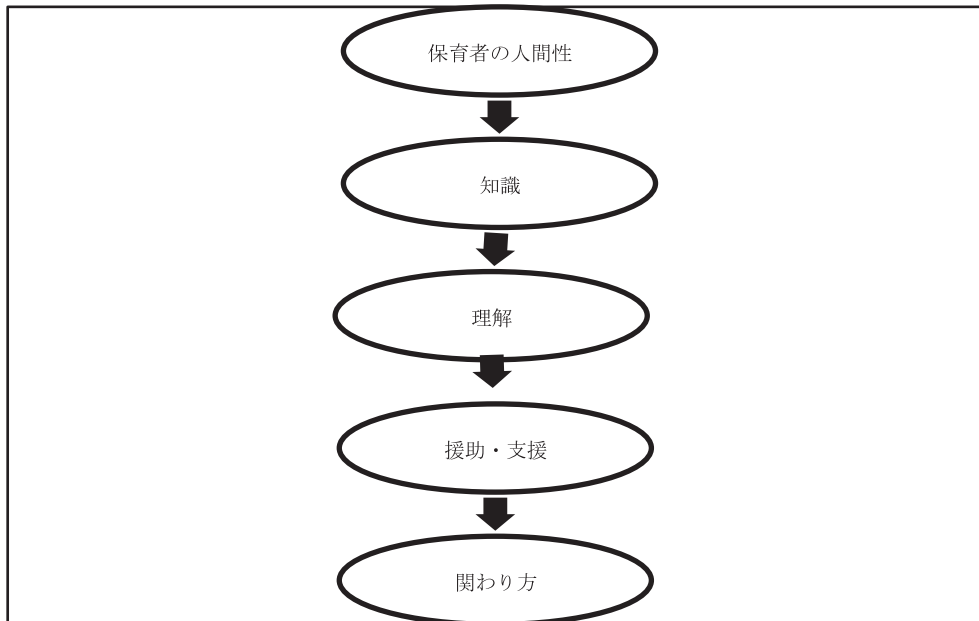


Figure 3 障害児保育における保育者の専門性：構造図（Bグループ）

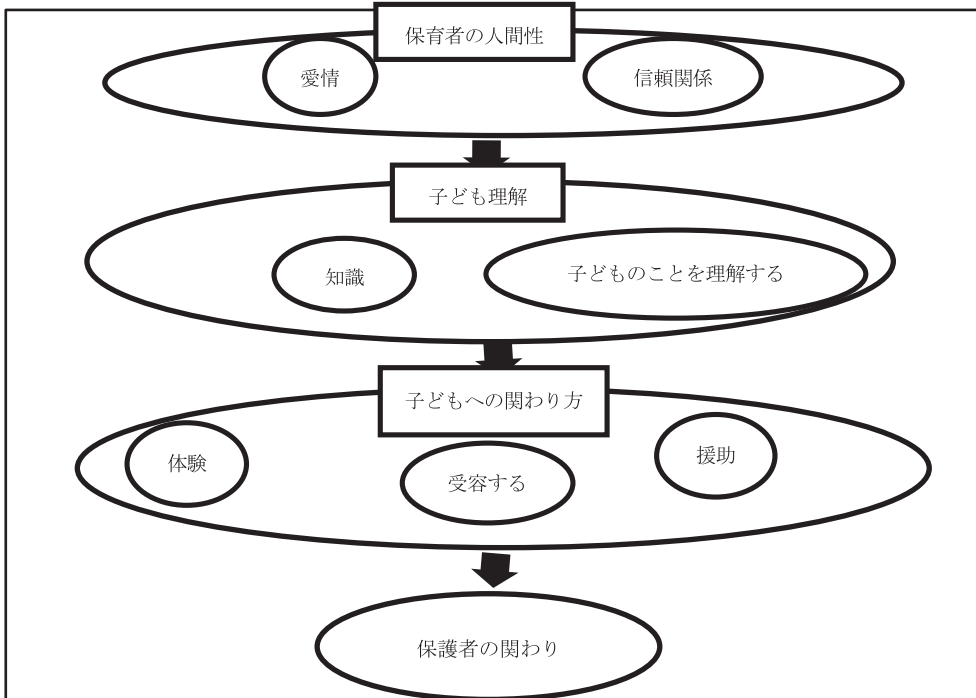


Figure 4 障害児保育における保育者の専門性：構造図（Cグループ）

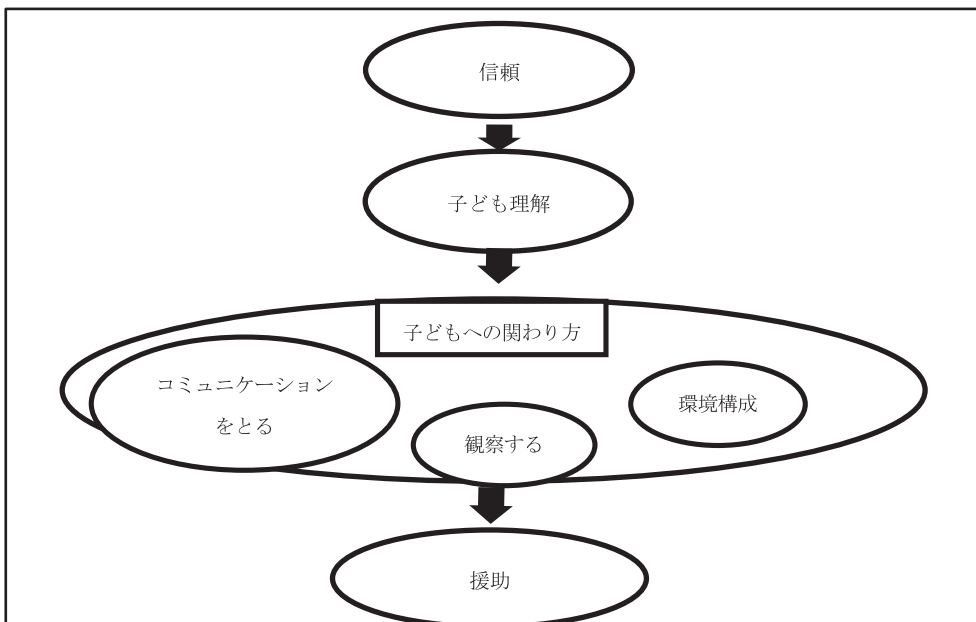


Figure 5 障害児保育における保育者の専門性：構造図（Dグループ）

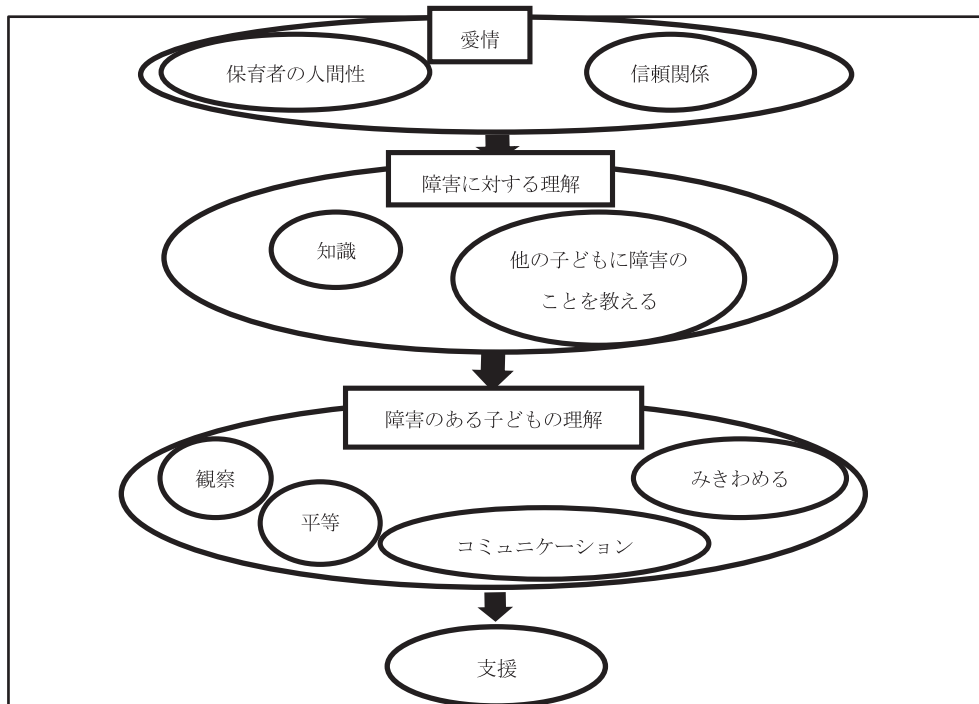


Figure 6 障害児保育における保育者の専門性：構造図（Eグループ）

#### IV 考察

本研究は、保育者養成校の学生が考える「障害児保育における保育者の専門性」を明らかにし、障害児保育実践に向けた今後の保育者養成の在り方について検討を行うことが目的である。保育者養成校の学生がディスカッションを行った結果から明らかになったことは以下のことであった。また、それぞれに考察を加えた。

##### 1. 二次カテゴリー・一次カテゴリーの特徴

結果1、2から、二次カテゴリーのうち、全グループが「子どもを理解する」をカテゴリーとして挙げていた。次に「保育者の人間性」「支援」「関わり方」を過半数の3グループがカテゴリーとして挙げていた。また、各グループの一次カテゴリーとして多いものから「相談・支援」（6グループ）、「理解」・「知識」・「信頼」（4グループ）、「観察」（3グループ）、「愛情」・「保育者の人間性」・「関わり方」・「環境」・「コミュニケーション」（2グループ）、「聞く」・「遊びを考える」・「保育者の体験」・「受容」・「平等」・「みきわめる」・「他の子どもに障害のことを教える」（1グループ）であった。

以上のことから、保育者養成校の学生は「障害児保育における保育者の専門性」として「子どもの理解」・「保育者の人間性」・「支援」・「関わり方」を重視していることが明らかとなった。これらは「保育士養成課程」の教科目「障害児保育」の内容の「2. 障害の理解と保育における発達の援助」と重なる。

一方、教科目「障害児保育」の内容の「1. 障害児保育を支える理念」、「3. 障害児保育の実際」、「4. 家族及び関係機関との連携」、「5. 障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題」に当てはまるカテゴリーは見られなかった。このことは、保育者養成校の学生は「障害児保育」の授業でこれらを勉強してはいるが、障害児保育において上記の4つの内容を「障害児保育の専門性」として重要だと考えていないことが示唆された。

## 2. 構造図の特徴

次に、各グループが二次カテゴリーで得られた結果から作成した構造図から、保育者養成校の学生が考える「障害児保育の専門性」は、以下の3点に要約されているのではないかと考えられる。

①専門性のなかで一番はじめに必要なことは「保育者の人間性」であり、「愛情」や「信頼関係」を築くことが重要であると考えている。

二次カテゴリーとして「保育者の人間性」をキーワードとしたグループは5グループ中3グループ（A・B・Cグループ）あり、そのいずれもが構造図のいちばん上位に「保育者の人間性」を配置している。

他の2グループ（D・Eグループ）は構造図の最上位に「信頼」または「愛情」を二次カテゴリーとして配置している。Dグループが二次カテゴリーとして最上位に配置した「信頼」は、A・Cグループでは「保育者の人間性」内の一次カテゴリーとして示されている。また、Bグループでは「保育者の人間性」の該当意見のすべてに「信頼関係」の言葉が含まれている。Eグループは二次カテゴリーとして最上位に「愛情」を配置しているが、「愛情」の一次カテゴリーとして「保育者の人間性」が示されている。

以上のことから、保育者養成校の学生は、「障害児保育における保育者の専門性」として最上位に重要なことは「保育者の人間性」であると考えていることが示唆された。

②その上で「理解」が必要であると考えている。

二次カテゴリーの「子どもを理解する」は全グループがキーワードとして示している。構造図の上位から2番目に配置したグループは3グループ（A・C・Dグループ）、上位から3番目に配置したグループは2グループ（B・Eグループ）であった。

Bグループは上位から2番目に二次カテゴリー「知識」を配置している。しかし、他の3グループは「子どもを理解する」の一次カテゴリーとして「知識」を含んでいる。また、残り1グループは二次カテゴリー「障害を理解する」の一次カテゴリーとして「知識」を含んでいる。以上のことから、Bグループが二次カテゴリーとして示している「知識」は「子どもを理解する」の一次カテゴリーとして内包できると考えられる。

Eグループは上位から2番目に二次カテゴリー「障害を理解する」を配置している。他の4グループは「障害の理解」に関する該当意見を二次カテゴリー「子どもを理解する」に内包している。したがって、Eグループが二次カテゴリーとして示している「障害を理解する」は「子どもを理解する」の一次カテゴリーとして内包できると考えられる。

以上のことから、保育者養成校の学生は、「障害児保育における保育者の専門性」として「保育者の人間性」の保証の上に、子どもや障害の「理解」が重要であると考えていることが示唆された。

③「保育者の人間性」の保証と子どもや障害の「理解」があって、「支援」や「関わり方」の技術が活かされると考えている。

二次カテゴリーとして「支援」は5グループ中3グループ(A・B・Eグループ)が、「関わり方」も5グループ中3グループ(B・C・Dグループ)がキーワードとして示している。すべてのグループが構造図として「理解」の次に「支援」または「関わり方」を配置している。「支援」と「関わり方」はお互いに一次カテゴリーや該当意見に内包されているキーワードであり、本研究の場合にはどちらも同じ内容のものであると考えてよいと思われる。

以上のことから、保育者養成校の学生は、「障害児保育における保育者の専門性」として「保育者の人間性」の保証と子どもや障害の「理解」の上に、「支援」や「関わり方」の技術が活かされると考えていることが示唆された。

## V 今後の課題

本研究の結果を踏まえ、さらに「障害児保育における保育者の専門性」を明らかにするために、現職保育者が「障害児保育における保育者の専門性」をどのように捉えているかを検証していきたいと考えている。さらに、保育者養成校の学生の結果と現職保育者の結果を比較検討することで、保育者養成課程の教科目「障害児保育」の教育内容をより深く検討していきたいと考えている。

調査に協力していただいた学生みなさんに紙面を借りてお礼を申し上げます。最後になりましたが、査読の先生には多くのご指摘、ご助言をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

---

## 引用文献

- 田中良三 1998「障害児保育のこれから～インクルージョンと発達保障～」季刊保育問題研究, 17, 8-21.  
山本佳代子・山根正夫 2006「インクルーシブ保育実践における保育者の専門性に関する一考察—専門的知識と技術の観点から—」山口県立大学社会福祉学部紀要, 12, 53-60  
津守真 1998「幼児保育から見た障害の意味とその歴史的変遷」保育学研究, 36 (1), 86-93  
園山繁樹・由岐中佳代子 2000「保育所における障害児保育の実施状況と支援体制の検討—療育ある統合保育に向けての課題—」社会福祉学, 41 (1), 61-70  
厚生労働省 保育士養成課程検討会 2010「保育士養成課程等の改定について(中間まとめ)」  
河内しのぶ・福澤雪子・濱田裕子 2006「統合保育が保育士に与える影響：K市で統合保育を経験した保育士へのアンケート調査より」産業医科大学雑誌, 28 (3), 337-348  
遠藤敬子・徳田克己 1996「統合保育に携わる保育者の専門性Ⅱ—養成校の授業担当者に対する調査結果を中心に—」障害理解研究, (1), 51-59  
川喜田二郎 1986「K J 法—混沌をして語らしめる—」中央公論社

## 付記

本論文は、2012年8月3日に第13回日本人権教育研究学会研究大会において発表した報告をもとに加筆修正を加えたものである。

